

白山高山帯・亜高山帯における低地性植物の分布について(2)

野 上 達 也 石川県白山自然保護センター

DISTRIBUTION OF LOWLAND PLANTS IN ALPINE AND SUBALPINE ZONE OF MT. HAKUSAN(2)

Tatsuya NOGAMI, *Hakusan Nature Conservation Center, Ishikawa*

はじめに

白山の登山道や南竜ヶ馬場などの登山施設周辺では、本来、平地に見られるオオバコ (*Plantago asiatica* L.) など低地性植物が見られる。本研究は、今後の白山の高山帯及び亜高山帯における低地性植物の除去を含めた高山・亜高山帯の自然環境保全について検討するための基礎資料とするため、白山の高山帯にまで分布を広げてきたオオバコなどの低地性植物の分布について調査したものである。

野上(2001)では、マメ科のシロツメクサ (*Trifolium repens* L.), オオバコ科のオオバコ (*Plantago asiatica* L.), キク科のフキ (*Petasites japonicus* (Sieb. Et Zucc.) Maxim.), イネ科のスズメノカタビラ (*Poa annua* L.) の4種について、白山の登山道のうち、砂防新道、南竜道、観光新道、エコーライン、トンビ岩コース、展望歩道、山頂お池めぐりコース、加賀禅定道の一部、別山・市ノ瀬道における分布調査の結果を報告した。本報告では、これらの登山道以外の調査結果及び追加調査の結果について報告する。

調査対象種及び調査ルート・方法

調査対象種は、野上(2001)で調査した4種と同じシロツメクサ、オオバコ、フキ、スズメノカタビラである。これら4種は、石川県白山自然保護センター(1995)が、1993年及び1994年に白山の標高2,200m以上の高山帯を中心とした範囲で実施した白山高等植物インベントリー調査で、白山の高山帯でその分布が確認されている種である。

調査した登山道は、白山禅定道(観光新道分岐～市ノ瀬登山口)、釈迦新道(千蛇ヶ池～大汝峰～七倉の辻～登山口)、お池めぐりコース(室堂～千蛇ヶ池)、楽々新道(小桜平避難小屋～岩間道・楽々新道分岐)、岩間道(岩間道・楽々新道分岐～岩間温泉元湯)である。その他、シロツメクサ及びスズメノカタビラについては砂防新道において補足調査を行った。各登山道の調査ルート及び日程は、図1及び表1のとおりである。

オオバコについては、オオバコが見られた場所において30cm×30cmの方形区を設定し、その中の個体数が1個体のみ、2～5個体、6～10個体、11個体以上の4段階に分け、その位置と共に記録した。フキについては、フキが見られた場所において1m

表1 調査ルート及び日程

調査ルート		調 査 日	備 考
白山禅定道	観光新道分岐～市ノ瀬	2002. 6. 24	
砂防新道	中飯場～室堂	2002. 7. 6	スズメノカタビラ調査
砂防新道	別当出合～南竜水平道分岐	2002. 7. 25	シロツメクサ、スズメノカタビラ調査
釈迦新道	千蛇ヶ池～大汝峰～七倉の辻～市ノ瀬	2002. 7. 26	登山口～市ノ瀬の車道は未調査
お池めぐりコース	室堂～千蛇ヶ池	2002. 7. 26, 9. 19	対象種未発見
中宮道	千蛇ヶ池～中宮温泉	2002. 9. 19～20	
楽々新道	小桜平避難小屋～岩間道・楽々新道分岐	2002. 10. 4	
岩間道	岩間道・楽々新道分岐～岩間温泉元湯	2002. 10. 4	

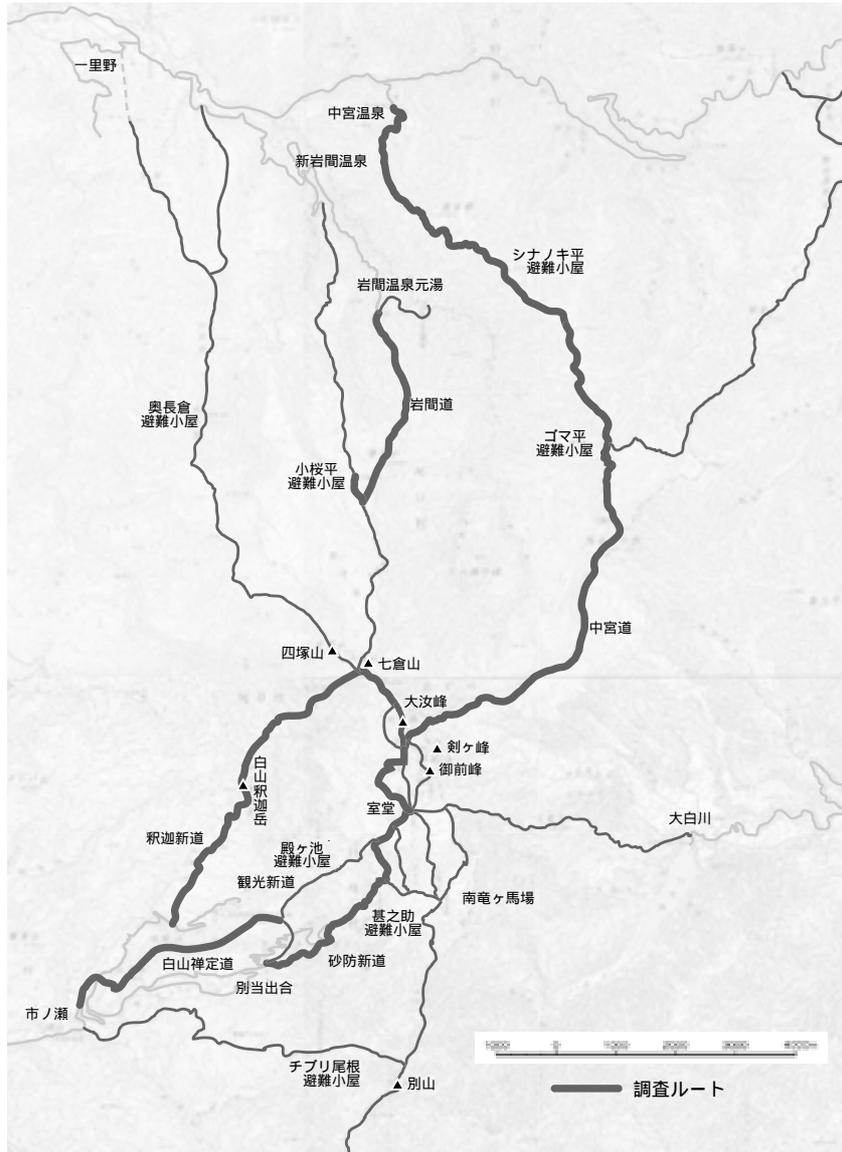


図 1 調査ルート

国土地理院発行 5 万分の 1 地形図「白峰」「白川村」「越前勝山」「白山」を使用。

× 1 m の方形区を設定し、その中の個体数が 1 個体のみ、2 ~ 5 個体、6 個体以上の 3 段階に分け、その位置と共に記録した。シロツメクサ及びスズメノカタビラについては分布が確認された位置を記録した。

結果および考察

シロツメクサ

シロツメクサの調査結果について、野上 (2001) の調査結果もあわせ、図 2 に示す。

シロツメクサについては、砂防新道と観光新道の登山口である別当出合 (標高 1 260m) と南竜ヶ馬場の南竜山荘及び南竜ヶ馬場ビジターセンター周辺

(標高約 2 080m) で確認されていた (野上, 2001) が、今回新たに砂防新道では別当出合の吊り橋を渡ってすぐの地点 (標高約 1 250m) と中飯場 (標高約 1 490m) でも確認された。また、岩間道の登山口である岩間温泉元湯 (標高約 1 000m) と釈迦新道の車道との分岐地点 (標高約 1 140m)、中宮道のゴマ平避難小屋及びゴマ平休憩園地 (旧 ゴマ平避難小屋跡地) (標高約 1 850m) で確認された (図 2)。
南竜ヶ馬場の南竜山荘及び南竜ヶ馬場ビジターセンター周辺、ゴマ平避難小屋及びゴマ平休憩園地の建築物及び建築跡地周辺以外にはシロツメクサの分布が見られないこと、近くに車道がないことから、ヘリコプターによって搬入された建築物の資材等に付着して運ばれた種子が発芽し、定着した可能性が

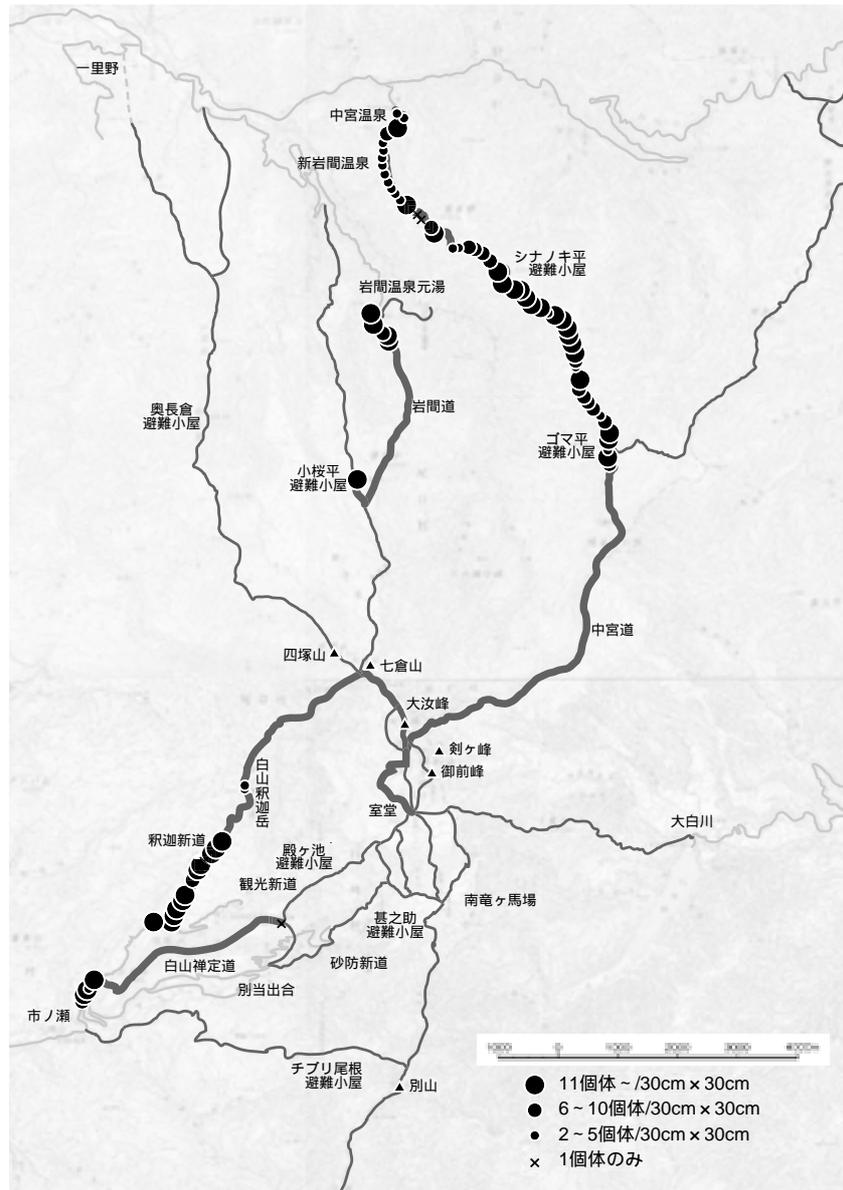


図3 オオバコ (*Plantago asiatica* L.) の分布
 国土地理院発行5万分の1地形図「白峰」「白川村」「越前勝山」「白山」を使用。

高い標高2,010m付近から中宮温泉にかけて確認された。シナノキ平避難小屋付近を境にして標高が高い地点の方で密度が高く、低い地点の方で密度が低くなっている。これは、登山道がブナ帯に入り、登山道上部が樹木により日陰されることにより、その密度が低くなっているのではないかと思われた。同じ登山道、同標高では、ギャップにより林冠が開け、日当たりの良い所で密度が高くなっていた。

岩間道では、最も高標高地点でオオバコの分布が確認できたのは、標高約1,330m付近であった。以下、標高約1,000mの岩間温泉元湯まで分布が確認された。今回調査した白山の北部の登山道、中宮道と比べると、その分布の上限が約700mも低い。そ

他、小桜平避難小屋（標高約2,000m）の小屋の入口周辺で確認された。

フキ

フキの調査結果について、図4に示す。

白山禅定道では、車道と交差する標高約1,000m以下の釈迦新道と共通の登山道で見られ、スギ植林地内では頻度は減るが、ところどころに見られた。そのほか、標高約1,150m付近の階段を設けてある場所でも確認できた。この場所は、平成11年に開設された所で、階段の工事の際に種子等が持ち込まれたのか、開通後、登山者らによって持ち込まれたのかは明らかではない。それより上部から観光新道分

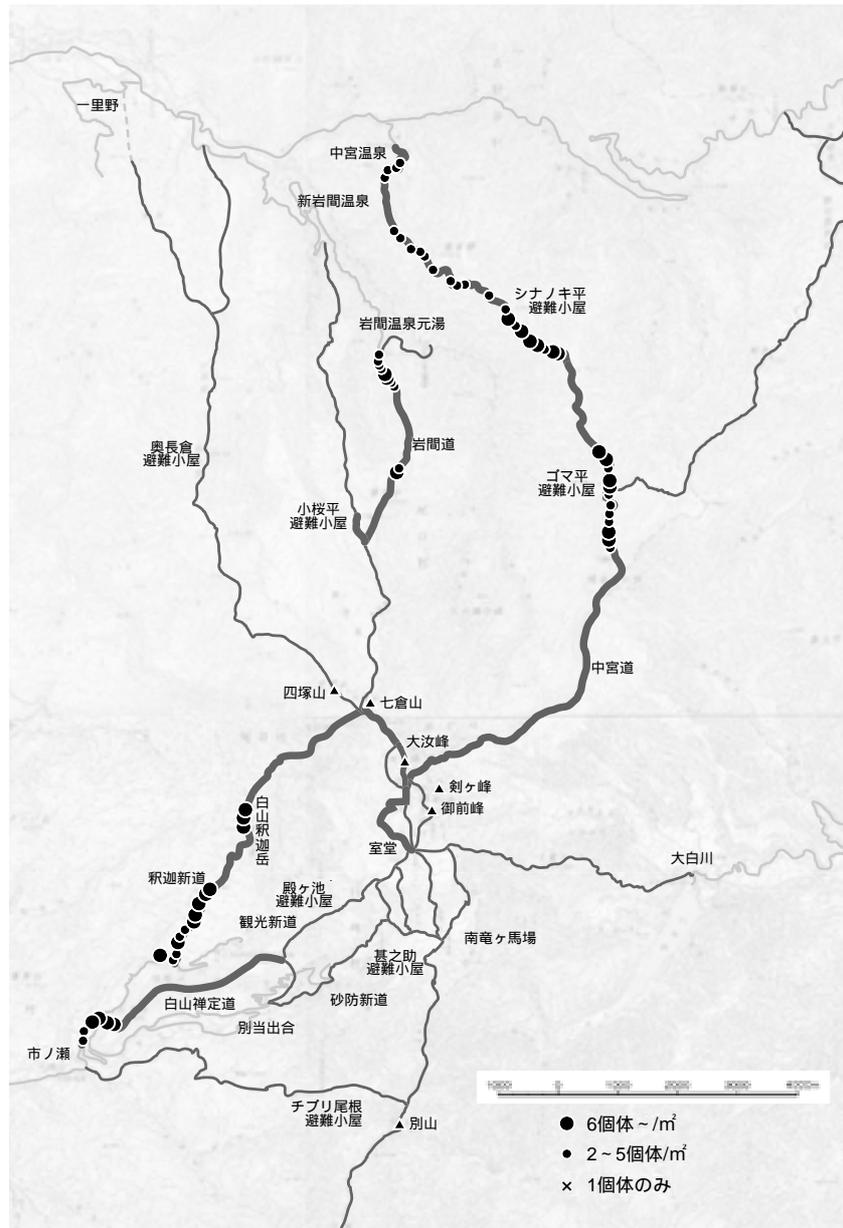


図4 フキ (*Petasites japonicus* (Sieb. Et Zucc.) Maxim.) の分布
国土地理院発行5万分の1地形図「白峰」「白川村」「越前勝山」「白山」を使用。

岐までの間では確認できなかった。

積迦新道でのフキの分布が確認できた最高標高地点は、白山積迦岳近くの標高約1,940m～2,025m付近であった。以下、標高約1,630m付近までは分布が確認されなかったが、標高約1,630mから積迦新道と車道との合流地点(標高約1,140m)まで、1m×1mの方形区内に6個体以上見られることが多かった。

中宮道では、ゴマ平避難小屋付近を中間地点として標高約2,030m～1,750m付近とシナノキ平避難小屋を中間地点として標高約1,690m～1,230m付近、中宮温泉近くの標高約1,060m～840m付近の大きく分けて3つの区間で確認された。オオバコと同様、

シナノキ平避難小屋付近を境にして標高が高い地点の方で密度が高く、低い地点の方で密度が低くなっていた。

岩間道でのフキの分布が確認できた最高標高地点は、標高約1,870m～1,860mであった。以下、標高約1,410m付近までは分布が確認されなかったが、標高約1,410mから標高約1,000mの岩間温泉元湯まで分布が確認された。

スズメノカタビラ

野上(2001)の調査結果もあわせ、スズメノカタビラの調査結果について、図5に示す。

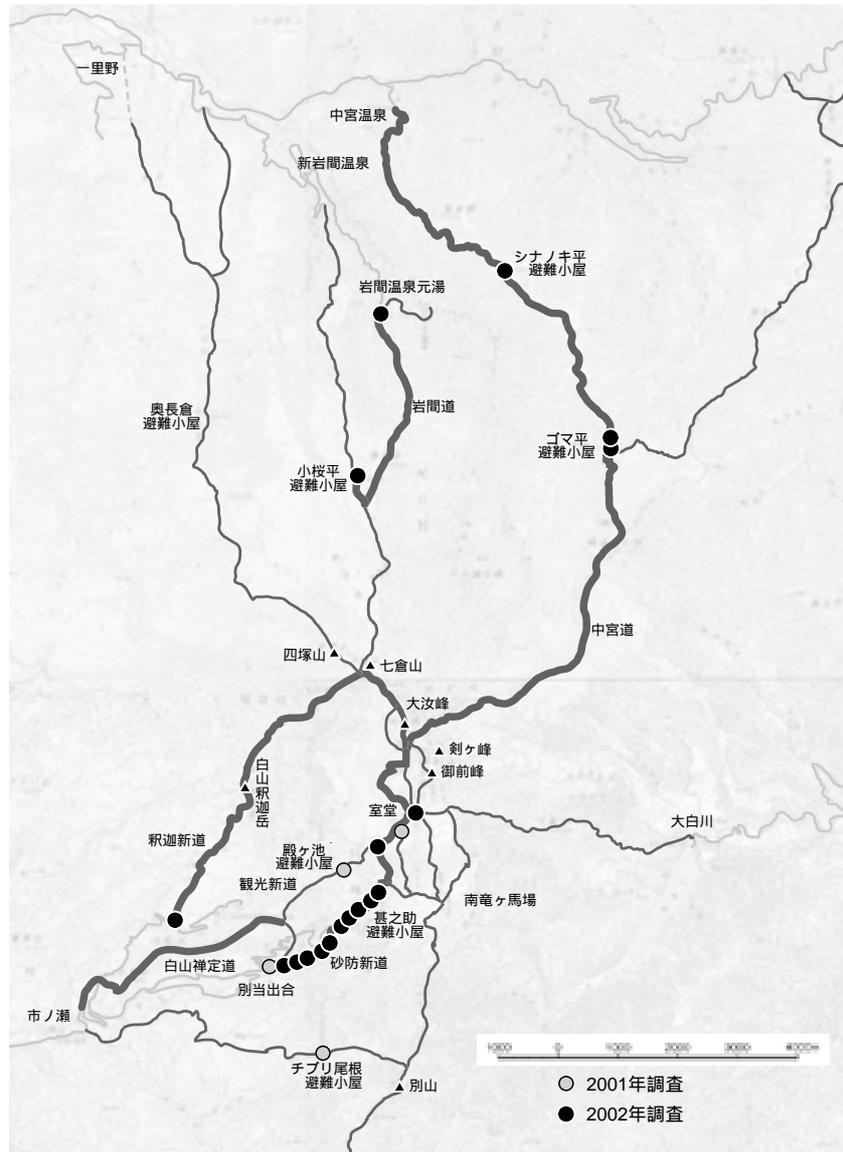


図5 スズメノカタビラ (*Poa annua* L.) の分布
 国土地理院発行 5 万分の 1 地形図「白峰」「白川村」「越前勝山」「白山」を使用。

野上 (2001) の結果に加え、砂防新道では、標高約 1,330m から甚之助避難小屋上部の標高約 2,050m までと十二曲りの下、標高約 2,230m で確認された。

また、小桜平避難小屋 (標高約 2,000m)、ゴマ平避難小屋及びゴマ平休憩園地 (旧 ゴマ平避難小屋跡地) (標高約 1,850m)、シナノキ平避難小屋 (標高約 1,450m) の各避難小屋の周辺、釈迦新道と車道との合流地点 (標高約 1,140m) と岩間温泉元湯 (標高約 1,000m) の登山口で確認された。

おわりに

今後、野上 (2001) 及び今回の調査で調査が終わっていない加賀禅定道及び楽々新道、平瀬道での状況

を調査し、白山における低地性植物の分布についてまとめたいと考えている。

本報告の調査、とりまとめに協力いただいた環境省白峰自然保護管 二神 紀彦氏、石川県白山自然保護センターの館 清氏、畔柳有希子氏に謝意を表します。

参考文献

石川県白山自然保護センター (1995) 白山高等植物インベントリー調査報告書, 200pp.

野上達也 (2001) 白山高山帯・亜高山帯における低地性植物の分布について. 石川県白山自然保護センター研究報告, 28, 1 - 6.